

平和への誓い

私たちは、高校3年生から豊川海軍工廠語り継ぎボランティアとして活動しています。まずは、活動を始めたきっかけをお話します。

正直、私にとっての豊川の歴史や戦争は、テレビや教科書の中で見るどこか遠い出来事でした。それが変わったのは高校生の時です。母校である国府高校の先輩が豊川海軍工廠で働き、命を落としたことを知りました。手記を読む中で、失われてしまったのは、今の私と同じように制服を着て友達と笑い合う日常だったのだと気づき、ぐっと身近に感じました。当時をもっと知りたいと思い、片岡さんを誘ってボランティアに参加し始めました。

私の祖母は豊川海軍工廠で働いていました。8月7日の爆撃を受け、生き残った祖母は多くを語らず、私が物心つく前に亡くなりました。祖母のこと、それに繋がる自分の歴史を知りたいとずっと考えていました。小学校からの同級生であった夏目さんから誘いを受けたことがきっかけで、活動を始めました。

ガイド活動の中で、来場者の方の考えや経験を引き出せた瞬間や来場者の方から自分になかった視点をいただく瞬間は何にも代えられない喜びであり、やりがいです。

一方で葛藤もあります。片岡さんの祖母がそうであったように、当時を語りたがらない人も大勢いらっしゃるからです。戦争体験を語り継ぐことは、戦争体験者にとってつらい記憶を掘り起こす事でもあるのかもしれませんが。そしてやはり、戦後に生まれた私たちにとって、当事者意識をもつことは難しく感じられます。何より、戦争について話すことは、どこか怖く、不安な思いを抱えることでもあります。

それでも、私たちは語り継いでいきたいと思っています。

誰にも知らなければ、過去の出来事はなかったことになってしまうからです。

今私たちが知り得る歴史は、誰かがここまで思いや願いを込めてつないできたものであるはずです。それを現代の私たちが、その時代を生きた人を忘れずに語り継ぎ、考えていくことが、これからの未来をどう作るかに繋がっていくのだと信じています。

私たちが行う活動の中では、いつも来場者の方にこうお伝えしています。

「今日知ったことや考えたことを、ぜひ家族や友達に伝えてください」

知ったことや考えたことを誰かに共有することは、まさに語り継ぐことの始まりです。

そして一人一人が思いをもってそれを続けることで、次の誰かに届き、そのまた次へと、語り継ぎの輪が広がっていくはずです。

豊川海軍工廠が被ばくしたあの日から 80 年。

私達は戦後と呼ばれる今を、未来を、「戦後」のままにしないでいけません。

意見や立場の違いを怖がらず、話し合いを重ね、平和を築いていかなければなりません。

私たちには「考える力」があります。

再び、誰にも悲劇がおこらないように、考えて動く力です。

悲しい歴史を繰り返さないためにできることは、絶対にあります。

その中の 1 つが語り継ぎという行為だと思います。

どうか語り継ぎを難しく考えすぎず、感じたことを言葉に出してみませんか。

ここにいる皆さん、配信を見ている皆さん、豊川に住む皆さん。一人一人にできることがあります。

みんなで明るい未来を創っていきましょう。

それが、私たちの「平和への誓い」です。

令和 7 年 8 月 7 日

片岡優美 夏目和佳